

## ヤマイモ（普通）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
分割法												
主な作業	植 え 付						収 穫					

ヤマイモ ヤマノイモ科、原産地：日本

作物名 ヤマイモ

学名 *Dioscorea opposita* Thunb.

作型 ヤマイモ

(2) 投下労働時間 1, 000時間/10a

(3) 所得率 55%

(4) 経営規模 40a

(家族労働力2人の場合)

### 技術栽培

#### 1 作型の特徴

貯蔵性が高く、しかも高温性で多日照を好み、促成に適した品種もないために作型分化は見られず、むしろ芋の形により栽培方法が異なるので、これを作型とする場合もある。ごく一部の早生の長芋やとっくり芋を用いて早堀り栽培が行われており、トンネル栽培やマルチ栽培も行われている。

#### 2 適応地域

全域

#### 3 栽培条件

##### (1) 気象条件

高温を好み、発芽・生育には17℃以上が必要となり、夏季多日照で昼夜の温度較差が大きい所が適地である。耐寒性、耐乾性、耐湿性はない。

##### (2) 土壌条件

土質は特に選ばないが、排水が良好で膨軟な土質が適する。

#### 5 経営目標

(1) 収量 5t/10a

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

我が国では昔から山野に自生する自然薯（ジネンジョ：n=20）と栽培されるヤマノイモ（n=70）は直接の類縁種ではない。栽培種の子芋は長芋、いちょう芋、大和芋の大きく3つの群に分けられる。

<長芋群>生育が早く、短い期間に収量があがる。

草勢・耐病性は強いが、大和芋と比べ収量は多いが水分が多く粘りが少ない。

<いちょう芋群>短根で土層の浅い土地にもできるが長いものに比べ草勢・耐病虫性・耐乾性は弱い。

<大和芋群>生育に長期間を要し、気温も高めが適するが乾燥に弱い。草勢・耐病性とも弱い、粘りが非常に強く品質も3群中でもっともよいとされる。

#### 2 繁殖

無性生殖であり、成芋を分割した切り芋か、むかご、あるいは成芋の小切片（30g程度）を1～2年養成した子いもを100～150gに切って種芋とする。種芋は、貯蔵中に罹病したものや傷いものなどを除き、病害虫に汚染していない、太りのよいものを選ぶ。種芋の大きさは、75g以上あればよい。

とされるが、100g以上が望ましい。種芋の所要量は、3,500株植え(畦幅90cm、株間30cm)で450kg程度である。

種芋を分割する場合、切り口に殺菌剤を塗布し、20～25日間日干しし、切り口をコルク化させる。

### 3 圃場準備

長芋はいもが長いので、耕地が深く均一な土質で水が停滞しないことが重要である。トレンチャーで1mほど深耕し、ながいもの肥大しやすい土壌を造成するとともに、土壌の膨軟化によって収穫作業を容易にする。

### 4 施肥

生育中期の吸肥量が多くなるので、追肥に基肥以上の重点を置き2回行う。

施肥基準量(成分量) (kg/10a)

		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
長芋	基肥	25	30	20
	追肥	15		20
合計		40	30	40

大和芋	基肥	20	25	20
	追肥	10		10
合計		30	25	30

### 5 催芽

発芽には高温(切りいもの不定芽の形成は25～30℃の温度で促される)を必要とするので、暖地以外では催芽をして種芋の発芽所要時間を短縮する。

催芽は25～30℃の床温と70%の湿度で15～20日程度であり、不定芽がダイズ大になったら定植する(地温が15℃以上になったところが植え付け適期)。

### 6 植え付け

分割法では3月下旬～4月上旬で生育適温に達してから、畦幅70～75cm、株間30～35cm

であらかじめトレンチャーで深耕したした位置に植え付け、10cm程度覆土する。

### 7 管理

葉の受光面積を多くするため、支柱をたてる。

支柱は長いほど良く、長芋の場合で2～3mの高さのネット状に組んで用いる。

除草は、吸収根が浅いので根が傷まないように6月(芋の肥大開始期)までに終え、麦わらをしくなどして草の繁茂を防止する。

地這栽培もあるが、受光体制をよくするために支柱栽培とする。支柱は高いほど良く、合掌式にたてネットなどで栽培する。

### 8 病虫害防除

ながいものがネコブセンチュウに侵されると、外見・品質を悪くするため、殺センチュウ剤やクロルピクリン剤などで土壌消毒による被害防止をおこなうか、2～4年の休閑圃場を用いる。

茎葉に発生する主要病害はハシブ病、タンソ病で、多雨により発生が助長される。薬剤による防除効果が高く、発病期の予防散布が効果的である。

### 9 収穫

収穫は茎葉が黄化しはじめる9月から開始するが、充実した芋を収穫するには、降霜後に行う方がよく、冬から春にかけて掘り上げるとよい。長芋はトレンチャーや山芋掘り器で掘り上げるが、植え付けの際長芋収穫器をを斜めに差し、その中に長芋が入るように種芋を植え、収穫器ごと収穫する方法もある。

### 10 貯蔵

ヤマノイモの貯蔵温度は12～15℃で、停滞水のない暗いところに、深さ30～60cmの穴を掘り、芋をつみ重ね、その上にわらを敷き、15～30cm覆土して雨水が入らないようにする。